

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2016

課題番号：26300038

研究課題名(和文) 中越国境地域の市場に見る民族間交流とエスニシティの文化人類学的研究

研究課題名(英文) An anthropological study of interactions of the peoples and their ethnicities in the markets in the border area between China and Vietnam

研究代表者

芹澤 知広 (SERIZAWA, Satohiro)

奈良大学・社会学部・教授

研究者番号：60299162

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,100,000円

研究成果の概要(和文)：国境を接する中国の南部とベトナムの北部では、歴史的に人々の往来が盛んに行われてきた。本研究では、中国側では広西チワン族自治区の東興市、ベトナム側ではクアンニン省のモンカイを中心都市とする、国境地域の沿岸部に焦点をあてて調査を行った。人々は婚姻や友人関係を通じて経済活動を行い、頻りに国境を越えている。扱われている商品は、今日の輸送技術の恩恵を受けて広範囲に移動している。人々のあいだには文化的な共通性があるが、中国とベトナムの双方において、国防上の理由から特徴的な宗教施設が現在建設されていることも確認した。

研究成果の概要(英文)：The border between China and Vietnam is positioned between the southern part of China and the northern part of Vietnam. For this study, we have chosen the borderland coastal area as our research site. The central cities in the area are Dongxing in Guangxi province in China, and Mong Cai in Quang Ninh province in Vietnam. Throughout history, the people living in the border area have often crossed the border and lived on both sides. Today, they often cross the border for their business activities, utilizing their social relationships through marriage and friendships. The goods that are bought and sold come from remote places such as Guangzhou, Yiwu, and Ho Chi Minh City. The cultural traits shared by the peoples living in the China/Vietnam borderland can be detected. However, we have also discovered that both the Chinese and Vietnamese governments are now constructing religious facilities in the border area, for the purpose of national defense in the border area.

研究分野：文化人類学

キーワード：中国 ベトナム 国境地域

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来の文化人類学の市場(いちば)に関する研究は、市場内の商取引の微細な観察からミクロなモデルを提示することに特徴があった。例えば、クリフォード・ギアツの著名なバザールの研究では、個々の商人が取り結ぶ顧客との関係をモロッコの市場の特徴として提示している。いっぽう、市場についてのマクロなモデルとしては、共産主義革命前の中国四川省の事例にもとづく、ウィリアム・スキナーの中国社会の市場構造論が有名である。中国の農村は市場町や都市と網目状につながり、農村の定期市で提供される商品は、より高次の市場町で提供される商品との関係で、位置づけが決まる。しかしながらミクロなモデルにせよ、マクロなモデルにせよ、一国内における市場を想定しており、国境地域の市場や、国境を越えて流入する商品と自国で生産されて供給された商品の差異については、従来の文化人類学の研究のなかで十分に考慮されることがなかった。

(2) 研究代表者は、2010年から2012年にかけて、ベトナム北部のハノイと中越国境地域のベトナム側において、中国とベトナムのあいだの人々と物の交流を具体的に観察する機会に恵まれた。そのなかで、中越国境地域における諸民族のあいだのエスニック・バウンダリーをめぐる動態を、物質文化を手がかりにして考察するという研究計画を発想した。

2. 研究の目的

(1) 中越国境地域の事例は、世界の他地域の国境貿易と比較するうえで、きわめて重要である。現在のベトナムにおいては、多くの日用品が中国からの輸入品であるにもかかわらず、中国とは友好関係にあるというよりは緊張関係にある。とくにベトナム北部では、1978年から79年の中越紛争によって、華人の多くがベトナムを離れた。古くからの華人の存在や中国の文化的影響は現在でも大いに見られるが、これらの現象はベトナム政府の側から、とくに多数派民族であるキン族の立場からの研究では、意図的、無意図的に今も視野に入れられていない。そのためベトナム北部の中越国境地域は、輸入品が国家や民族のなかでどのような意味を与えられ、流通し、用いられているのかを研究するうえで最適の調査地になる。

(2) 中越国境地域の民族の動態については、ベトナム研究者や人類学者による日本語の先行研究がすでにあり、中越国境貿易についても中国広西チワン族自治区の側から報告した日本の経営学者の研究などがある。しかし、歴史的に中国と東南アジアの交流の舞台であったトンキン湾に面し、中越交流の結節点である都市モンカイを含む、ベトナム・ク

アンニン省では、文化人類学はもとより、他の人文・社会科学の分野でも、日本人による調査研究が今までまったく行われていない。そのため、そこに住む民族、その地にゆかりのある人々、そして彼らの暮らしぶりを調査することに意義が認められる。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者は、主としてベトナムのホア族(華人)を研究しているため、ベトナムのキン族と、ホア族以外の少数民族を研究する人類学者との共同研究という方法を採用した。ベトナム北部のキン族を研究している人類学者、ベトナム南部のチャム族を研究している人類学者が研究分担者となった。また、中越紛争後に、ハノイやクアンニン省の華人の多くが中国へ帰国し、現在では広西チワン族自治区や広東省に多く居住していることから、中国本土における東南アジアからの帰国華僑を研究している人類学者も研究分担者になった。さらにベトナムにおいても中国においても、現地の研究者の協力なくしては実地調査を行うことができないため、両国の研究者を海外共同研究者として要請して実地調査を行った。

(2) 初年度は、共同研究メンバーがハノイに集合して打ち合わせを行った後、ベトナムの海外共同研究者とともに、中国との国境貿易を行っているベトナム・ランソン省のタンタインと、クアンニン省のモンカイを訪れて実地調査を行った。実地調査の方法は、文化人類学のフィールドワークに特徴的な参与観察とインタビューである。2年目には、中国の海外共同研究者の協力を得て、タンタインの中国側にあたる、広西チワン族自治区の憑祥市と、モンカイの中国側にあたる東興市で実地調査を行った。そして3年目には、ベトナムのモンカイから中国側へ出国し、東興市の実地調査の後、ベトナムへ再入国することで、中国とベトナムの両国において、出入国後の空間がどのように整備されているのか、出入国管理がどのように行われているのかについて、参与観察を行った。このほか、中国ではベトナム向け商品の卸売市場のある広東省広州市や、中越国境地域に相当する「欽廉」地区の中心都市である欽州市、京族(ベトナムでのキン族に相当する)が多数居住する防城港市でも調査を行った。また1970年代から90年代にかけてベトナム難民を多く受け入れ、現在もベトナム系住民の多い香港特別行政区でも調査を行った。いっぽうベトナムでは、ハノイ市やクアンニン省などの北部のほか、華人人口が多く、中国製品も多く流通する南部の中心都市ホーチミン市にて調査を行った。

4. 研究成果

(1) 国境地域に住む人々は婚姻や友人関係を通じて経済活動のために頻繁に国境を越

えて往来している。朝に国境の門が開くと、ベトナムから多くの女性が果物などの品物を担いで中国へ入国する。なかには、国境が開いている日中に、ベトナムと中国を何度も往復して品物をもっぱらに運ぶ「運び屋」をしている女性もいる。中国へ来た物売りのベトナム女性は夕方、国境の門が閉まる時に、自分の売れ残った品物と、新たに中国で買った品物を持ってベトナムへ帰る。しかし中国側で朝に会ったベトナム女性のなかには、中国の友人の家に一泊して前日帰国しなかった女性もいた。中国側でベトナム製品を売る店を出している、あるベトナム女性は、中国人の夫がベトナム製品を広東省などへ卸す仕事をしている。中国で会った、あるヤオ族（ベトナムの民族名では「ザオ族」）の女性は、ベトナムから中国へ嫁いだ親類を頼って、3か月の旅行ビザでベトナムから中国へ入国して働いていた。

(2) 国境地域の都市で扱われている商品は、今日の輸送技術の恩恵を受けて中国とベトナムのあいだを広範囲に移動している。中国広州市で会った、あるベトナム人女性は、ベトナムの大学で学んだ中国語を生かし、中国製の衣服をベトナムへ輸入する商売をしている。彼女は毎月のように広州へ来て商品を買付け、特定の輸送業者（ベトナム人と結婚している中国人男性）に頼んで品物をハノイへ運んでいる。ベトナム南部で売られている中国製品も、いったんベトナム北部に入ってから南部へと運ばれている。なお実地調査では、アフリカ人商人が衣服を買付ける広州市の商業地区や、マレーシア人観光客が衣服を買うベトナム・ホーチミン市の商業地区も訪れた。前者ではアジア人向けではなく、アフリカ人向けの図柄がプリントされた布が商品として用意されており、後者ではマレーシア人観光客と同じイスラーム教徒のチャム族が商店の売り子として働いていた。国際貿易の隆盛について、商業従事者からは卸値と売値のあいだのマージンの大きさに関係づけた説明を聞くことが多かった。その説明は国際ブランドの化粧品や煙草など、グローバルな商品については妥当だと考えられる（例えば、同じアメリカのブランドもののシャンプーであっても、中国で製造された中国向け商品よりも、ベトナムで製造されたベトナム向け商品のほうが安い）。しかし交通と運輸の発達によって、大きな地理的範囲を舞台にして、民族文化に特化したローカルな商業が展開されていることにも気づかされた。

(3) 国境地域に住む人々のあいだに文化的な共通性が、今なお存在することを確認した。歴史を通じて人々は中国からベトナムへ、あるいはベトナムから中国へ移り住んでいる。その移動が婚姻によって生じる場合もある。人と物が交わる国境地域の人々の共通語に

なっていたのが、「白話」という中国広西の広東語である。国境地域のベトナム側の市場には、少数ではあるが「白話」を解する人が今もいる。国境貿易が盛んであることから、中国製品やベトナム製品が国境地域では相互に使われている。食文化の面では犬肉や「ソイエック」という米粉を使った食品が売られている。宗教の面では、犬の石像、門口の呪符、紙銭、廟に祀られる神格、祭礼などに共通性が見られる。

(4) 国防上の理由から、中国とベトナムの双方が国境地域に特徴的な宗教施設を近年建設しつつあることを確認した。ベトナム・クアンニン省には、かつて「ハーコイ」と言われた市場町があり（現在の地名は「ハーイハー」）、華人の商店が並び、華人が祀る観音廟があった。その観音廟は1954年の南北ベトナムの分断を機に、この地の華人とともに南ベトナム（ベトナム共和国）へと移った（芹澤 2009）。その後の社会主義化によって観音廟などの宗教施設がなくなった後、近年になってキン族がハーイハーに仏教寺院を建設している。また中国側の東興市では、モンカイのキン族の廟の、川をはさんで向かい側にあたる場所に関帝廟が新たに建設されている。関帝はベトナム南部ではキン族にも人気のある神格であるが、国境地域の中国側では中国の武将としての側面が強調されているように思われる。いっぽうベトナムの側では、国内に侵入してきた元軍を退けた国家英雄のチャン・フン・ダオ（陳興道）が、国境地域に多く祀られている。実地調査の時期は、中越関係の悪化から、国境貿易が以前ほど活発には行われていなかった。しかしいっぽうで、政治的な緊張の高まりから、両国のあいだの国防上の動きを宗教施設からうかがうことができた。国防と宗教の問題は、民族と交易の問題と同様、国境地域を考えるうえで今後も注視すべき重要な課題である。

<引用文献>

芹澤 知広、「ベトナム・ホーチミン市のヌン族の華人」、『Field + 』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2号、2009、p.6

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 15 件)

芹澤 知広、「移民 - 香港の人の動きから考える - 」、上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、査読有、2017、pp.133 - 148

芹澤 知廣、「一九二〇年代以後日本佛教真言宗對香港和越南華人社會的影響」、蕭國健・游子安主編『1894 - 1920 年代：歴史鉅變

中の香港』、香港：珠海學院香港歷史文化研究中心、査読有、2016、pp.161 - 171

吉本 康子、「チャム・バニはムスリムか？『ホイザオ（ベトナムのイスラーム）』の多配列クラス」、白川千尋・石森大知・久保忠行編『多配列思考の人類学 差異と類似を読み解く』、風響社、査読有、2016、pp.75 - 94

奈倉 京子、「中国系移民の『故郷』を問う 帰国華僑の中国認識」、『文化人類学』、80 巻、査読有、2016、pp.615 - 634

Mariko Ito, Living in Intimacy: A Case Study of Women's Community at a Cao daist Temple in Hanoi, Atsufumi Kato (ed.) *Weaving Women's Spheres in Vietnam: The Agency of Women in Family, Religion and Community*, Leiden: Brill, 査読有、2015、pp.166 - 192

Satohiro Serizawa, Japanese Buddhism and Chinese Sub-ethnic Culture: Instances of a Buddhist Organization from Shantou to Vietnam, Tan Chee-Beng (ed.) *After Migration and Religious Affiliation: Religions, Chinese Identities and Transnational Networks*, Singapore: World Scientific, 査読有、2014、pp.311 - 327

芹澤 知広、「移民と宗教」、国立民族学博物館編『世界民族百科事典』、丸善出版、査読有、2014、pp.152 - 153

〔学会発表〕(計 18 件)

芹澤 知広、「ベトナム華人の中元節における供物・贈与・祭宴」、国際シンポジウム「現代アジアにおけるお盆・中元・七月の祭り - あの世界とこの世をめぐる儀礼」、2017 年 3 月 5 日、国立民族学博物館（大阪府吹田市）

芹澤 知広、「中国欽州からベトナム、さらにはオーストラリアへの護国観音廟の移動」、東南アジア学会関西例会、2017 年 2 月 25 日、京都大学（京都市左京区）

伊藤 まり子、「華人が去った後で - キン人間コンフリクトにみる『文化』の創造」、東南アジア学会関西例会、2017 年 2 月 25 日、京都大学（京都市左京区）

芹澤 知広、「ハノイの中華料理店 - 中国からの来訪者と嗜好のベトナム化 - 」、静岡県立大学グローバル地域センター講演会（招待講演）、2016 年 12 月 22 日、静岡県立大学（静岡県静岡市）

Satohiro Serizawa, The Chinese Restaurants in Hanoi and the Ethnic Chinese Immigrants to Vietnam, The 9 th

ISSCO (International Society for the Study of Chinese Overseas) International Conference, 2016 年 7 月 8 日、Vancouver, Canada

芹澤 知広、「一九五零年代之前越南南部華人宗教と中国本土関係：基督宗教と佛教を中心」、「跨国危機的対応：1850 - 1950 東亞港口城市華人的社會經濟生活」国際會議、2016 年 6 月 8 日、香港中文大学（中国、香港特别行政区）

Satohiro Serizawa, Votive Money in Hanoi: an Object on the Border between China and Vietnam, The 9 th International Convention of Asian Scholars (ICAS9), 2015 年 7 月 7 日、Adelaide, Australia

Mariko Ito, Avoiding a Soul to Float: Resilience among Women in Religious Community of Contemporary Northern Vietnam, The 9 th International Convention of Asian Scholars (ICAS9), 2015 年 7 月 7 日、Adelaide, Australia

6. 研究組織

(1) 研究代表者

芹澤 知広 (SERIZAWA, Satohiro)

奈良大学・社会学部・教授

研究者番号：60299162

(2) 研究分担者

吉本 康子 (YOSHIMOTO, Yasuko)

京都大学・東南アジア研究所・連携研究員

研究者番号：50535789

奈倉 京子 (NAGURA, Kyoko)

静岡県立大学・国際関係学部・講師

研究者番号：70555119

伊藤 まり子 (ITO, Mariko)

京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師

研究者番号：70640887